第三者評価結果の公表事項(母子生活支援施設)

①第三者評価機関名

社会福祉法人富山県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK15084 (21B010)、17C038

③施設の情報

名称：富山市立和光寮	種別：母子生活支援施設
代表者氏名：黒田 以有子	定員（利用人数）： 2世帯
所在地：富山県富山市西番 104 番地 1	
TEL：076-423-6201	ホームページ：
【施設の概要】	
開設年月日 昭和27年4月	
経営法人・設置主体（法人名等）：富山市社会福祉事業団	
職員数	常勤職員： 2名 非常勤職員 1名
専門職員	保育士 2名
施設・設備 の概要	母子室2（バス・トイレ付） 35.80㎡
	学習室（静養室） 30.90㎡
	事務室（共用） 58.56㎡
	面接室（共用） 12.17㎡

④理念・基本方針

【理念】

- ・母と子の権利と尊厳を守り、最善の利益のための支援！
- ・自立の促進・退所後の生活の安定をサポート！

【基本方針】

- ・日常生活支援と個別のニーズや課題に対し入所者と共に取り組む支援との総合的な支援を提供します。
- ・入所から退所・その後のアフターケアと、入所者の意向を尊重し、切れ目のない支援を計画的に行います。
- ・パートナーとして、母親と子どもが自己肯定感を回復し高める支援を行います。
- ・地域の福祉ニーズを把握し、地域の子育てを支援する活動を行います。
- ・将来の福祉人材育成のため、実習生を積極的に受け入れます。

⑤施設の特徴的な取組

- ・母親と子どもが受けることのできる支援や社会資源をサポート・エコマップにして明示したり、リストや資料を作成し提供したりする。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年10月6日（契約日）～ 平成30年3月22日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成26年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

・平成27年から入所者不在が続き、職員も今年度から着任の常勤職員2名と非常勤職員1名の計3名の現状だが、現状でできうる支援として、施設をとりまく課題を検討するとともに、過去の支援事例調査、母親向け・子ども向け・ローマ字表記を用いた「生活のしおり」や「理念・基本方針」の説明書をはじめとする各種業務書面の改善、施設をとりまく社会資源の把握とともに様々な事情を抱える利用者にサポート・エコマップを提示できるよう取り組むなど、次の入所者のために最善の努力を真摯に積み重ねている。

◇改善を求められる点

・入居施設は2部屋で、ともに家族として住む居住空間や、思春期の子どもや複数の子どもが来た場合に、安心して生活できる環境が確保されているとはいえ、様々な事情で来る入所者を想定した環境整備が求められる。

・併設されている児童養護施設、養護老人ホームの特性や当該施設利用者の個人情報漏洩の配慮から、それぞれの施設利用や利用者同士の交流を回避しているが、その事情によっては交流が望ましい場合も想定されることから、現在の協力関係の見直しにも取り組まれることを期待したい。

・職員の資質向上に向け、職掌に応じた他の母子生活支援施設の視察や義務的研修以外の研修参加等も計画に取り入れ遂行されることを期待したい。

・定員の2世帯が入所した場合の人員不足が想定され、また第三者によるカウンセリングや専門職による助言など、入所者、職員の両面で心理面をケアする仕組みも整えられることが望まれる。

・評価については、平成27年より入所者不在の現状の中、実践がほぼ伴っていない状況での評価結果である。特に内容評価基準（28項目）の「A-1 母親と子ども本位の支援」と「A-2 支援の質の確保」については、実践支援がともなっておらず、評価の対象のほとんどが机上の書類評価であるためC評価とした。入所者が入った時の対応に期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

2年以上入所者不在、寮長・少年指導員とも経験が浅いという状況下での第三者評価受審でしたが、現状で出来ることの支援内容や職員間のチームワークを好評価していただいたことは、今後の励みとなり、期待にそえるようこれからも最善の努力をしていきたいと思えます。改善を求められる点については、今すぐ取り組めること、長期に渡っての取り組みを要するものなど、職員間で十分話し合い、見直しを行い、対処していきたいと思えます。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

(別紙)

第三者評価結果（母子生活支援施設）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 28 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45 項目）

評価対象 I 支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・ b ・c
<コメント> 理念・基本方針は明文化されており、現在、職員が 3 名の少人数でもあり、理念の理解と共有は図られている。理念の内容は社会的養護の基本的な考えに沿った姿勢を示しており、基本方針も理念を踏まえ、単年度・中長期計画にも具体的に展開できるものになっている。母子への周知は、現在、入所者がいないため当事者の確認はできないが、新たに「生活のしおり」と「理念・基本方針」の説明書を、母親向け、子ども向け、ローマ字表記のものを作成し、入所時に対面にて丁寧に説明することとなっている。 インターネット上で、経営法人の定款、事業計画、財務諸表等の閲覧は可能であるが、地域社会や関係機関への周知の一環として、法人及び当該施設のホームページを立ち上げるなどして、理念や姿勢とともに運営上必要な情報を公開する新しい取り組みも望まれる。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・ c
<コメント> 常勤職員 2 名は、経営法人の人事で今年度 4 月からの着任のため、実務的に当該事項に取		

り組むまでには至っていないが、母子生活支援を想定したエコマップ（社会資源や家族関係地図）の作成過程において、施設をとりまく社会資源の現況把握に取り組んでいる。		
③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>施設運営の課題として、思春期や複数の子どもでも入居可能な居室整備、併設事業所（児童養護施設、養護老人ホーム）や地域社会との交流促進、他の母子生活支援施設の視察や義務的研修以外の研修参加等による専門性・実効性の向上、退所母子の現況調査などが想定されるが、施設運営の実情を踏まえ実現可能な経営課題を具体的に明確化し、その解決や改善に向けて取り組む段階までには至っていない。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>平成27年度の富山市指定管理者申請時に、平成28年から平成32年までの5カ年の施設管理の基本方針、運営維持・管理に関わる業務計画、収支予算等の事業計画が策定されているが、理念の基本方針が示す入所者と共に取り組む支援、入所から退所後も含めた切れ目のない支援、自己肯定感の回復支援、地域の子育て支援、実習生の受け入れなどの各基本方針の具現化に向けた課題や改善策を検討し、その実現に向けた管理体制や設備整備、併設事業所や地域社会との交流促進、人材育成等に関する具体的な取り組みを目標にして、計画に加えられることも期待したい。</p>		
⑤	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・㉖
<p><コメント></p> <p>5カ年計画を踏まえ、前年度の事業報告とともに当該年度における実行可能な単年度計画を策定しているが、内容は施設運営として実施すべき業務事項が多く、5カ年計画や前年度結果を踏まえての評価及び改善や課題の策定までは示されていない。今年度4月着任時から実際に取り組んできた過去の母子支援内容の分析、社会資源・家族関係地図作成をはじめとする業務書面の改善、また平成27年度から入所者不在になっている対策など、現状に即した対応策も考慮し、実行可能な範囲で数値化などできる限り定量的な目標も示して、より実効性のある単年度計画となるよう、次年度以降の取り組みに期待したい。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
⑥	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・㉗
<p><コメント></p>		

<p>常勤職員が今年度からの着任のため、当該事項への取り組みまでには至っていないが、改めて法人事務局と現場職員が協議し、5カ年計画、単年度の各計画の評価・見直しの時期、現場職員や利用者、また併設福祉事業所の意見や意向等も取り込めるような仕組み・手順を構築され、組織的に行われることを期待したい。</p>		
7	<p>I-3-(2)-② 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。</p>	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>今年度は一時保護業務の実績があり、その折、施設パンフレットとともに理解しやすい工夫として作成した母親向けと子ども向けの生活のしおりを配布して説明をしているが、理念・基本方針や事業計画の説明まではしていなかった。事業計画については、必ずしも計画そのものを配布する必要はないが、子ども用として作成した理念・基本方針説明書のように主な内容を簡素にまとめた書面も準備され、入所手順として組み込まれることを期待したい。</p>		

I-4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
<p>I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。</p>		
8	<p>I-4-(1)-① 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p>	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>支援の質の向上に向けた取り組みとして、5カ年計画に自己評価の実施や第三者評価の受審が明文化されており、今年度は現場職員間で前回の第三者評価結果を分析し、自己評価も実施しているが、その過程に法人事務局の参画までは得られていない。施設の運営管理は、現場のみならず法人事務局にも同様の姿勢が求められるものであり、より組織的な取り組みとして、計画策定→実行→評価→見直しサイクルを、その内容に応じて法人事務局も参画するような体制を構築されることを期待したい。</p>		
9	<p>I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p>	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>現場職員間では前回の第三者評価結果を分析し、それに基づいた課題を洗い出し、課題の認識を共有するとともに現場として職掌範囲でできる改善にも取り組んでいるが、検討過程の記録や改善に向けての計画策定までには至っておらず、次年度計画や中長期計画の見直しに向け、記録保存や手順の整備も求められる。</p>		

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
<p>Ⅱ-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。</p>		

10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長の職務分掌は、事務分担表に施設の運営管理者として明文化されており、その役割と責任についても常勤・非常勤職員に周知されており、不在時の権限移譲も副主務者が担当者として明確化されている。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・㉒
<p><コメント></p> <p>施設長は今年度からの着任のため、当該事項への取り組みまでには至っていないが、その必要性は認識しており、今後は、自らが遵守すべき法令等に関する正しい理解に向けた取り組みや、実際に遵守するための具体的な取り組みが期待される。</p>		
Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長は今年度着任して以来、当該施設でできる福祉サービスの質の現状分析や把握の一環として、常勤職員とともに過去の支援事例調査、母親向け、子ども向け、ローマ字表記を用いた「生活のしおり」と「理念・基本方針」の新書面作成、業務書面等の改善、過去の事例調査に基づく施設をとりまく社会資源の把握を兼ねたエコマップの作成など、指導力を発揮し職員とともに取り組んでいる。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>施設長は、事業経営の基本である業務の効率化と改善という基本的な課題を常に視野に入れ、組織を運営していくことに努めており、安定的かつ良質な福祉サービスの実現を意識しながら日々の業務に臨んでいる。職務分掌では、人事、労務、財務等に指揮権を有するものではないが、その職掌範囲の中で、できうる運営改善や業務の実効性を高める取り組みを引き続き追及され、実行されていくことを期待したい。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・㉒
<p><コメント></p> <p>採用や人事管理については法人事務局の所管となっており、基幹的職員として施設長、母子支援員、少年指導員、業務員、嘱託医が位置づけられているが、心理療法担当職員について</p>		

<p>ては併設の児童養護施設に臨床心理士職員がおり、直接、当該施設の入所者との相談はできないが、職員間としては相談できる環境となっている。</p>		
15	<p>Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。</p>	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>総合的な人事管理については法人事務局の所管となっており、理念・基本方針に基づく「期待する職員像」を明確にしたうえで、職員の採用、配置、育成、評価、処遇等の人事管理が適切に遂行されるよう期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>		
16	<p>Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p>	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>現在、職員3名の少人数でチームワークを大切にし、毎日のミーティングや毎月の職員会議を確実に実施し、職員が常に仕事に対して意欲的に臨めるよう互いに努めている。勤務シフトも柔軟に対応できるようにしており、健康診断の実施や予防接種補助の仕組みも整えられているが、第三者によるカウンセリングや専門職による助言など、心理面をケアする仕組みも整えられることが望まれる。</p>		
<p>Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p>		
17	<p>Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p>	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>現在、当該事項についての取り組みはない。理念・基本方針の具現化に向け、職員が持つ技量等を評価・分析するとともに、これまでの経歴や将来を見通した意向も踏まえたうえで、一人ひとりに必要な技術・知識・資格取得等を考慮し、個別目標を設定する体制を構築されることが望まれる。</p>		
18	<p>Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p>	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>5カ年計画・単年度計画に職場研修及び派遣研修が記載されており、職場研修として過去の支援事例を自分達が支援する立場でシュミレーションをしながら検討したり、派遣研修では母子生活支援施設の施設長として、また職員として受講せねばならない必須研修に参加しているが、着任したばかりの立場に即した研修内容ではないため、他の母子生活支援施設の視察や専門知識、面談や接遇等の実践力が身に着く研修も計画に取り入れ、より実効性を高められることが望まれる。</p>		
19	<p>Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。</p>	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>5カ年・単年度計画に記載された職場研修及び派遣研修は着実に実行されているが、各職</p>		

掌に応じた母子生活支援施設の視察や義務的研修以外の研修参加等も計画に取り入れ遂行されることにより、より専門性・実効性の向上を図られることを期待したい。		
II-2-(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>入所者不在が数年続いているため実施には至っていないが、実習生の受け入れは理念・基本方針でもあり、現体制では積極的に受け入れる方針である。現在、改めて受け入れ体制の見直しに着手しており、当該施設に応じた申込書や説明書の作成、受け入れ連絡窓口、個人情報保護への対応、母子への配慮をとまなう事前説明、施設職員及び併設事業所への事前説明、実習プログラム等の構築作業に取り組んでいる。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>支援を必要とする母親と子どもに、当該施設の内容を知ってもらうための情報公開の取り組みとして、施設紹介パンフレットを改訂し、インターネット上でも経営法人の定款、事業計画、財務諸表等の閲覧は可能であるが、公費による支援を実施する社会福祉事業者として、より適切かつ円滑に経営の透明性を図る取り組みも望まれる。地域の理解を深めるためにも、ホームページなど、理念・基本方針とともに運営上必要な情報を公開する新しい取り組みにも着手されることを期待したい。</p>		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>当該施設の経営は、設置主体の富山市から指定管理者として委託を受け経営主体となっている当該法人の所管となっており、チェック体制や監査体制については委託契約に準じて遂行されている。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 母親と子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>施設は前年度当初に移転してきており、常勤職員2名もまた今年度からの着任のため、地</p>		

<p>域との交流を具体的に広げる段階までには至っていないが、地域の保育所の入所式に招待された際や、併設福祉事業所が開催する地域の方々を招く行事にも参加し、地域の自治会役員、民生委員、小学校長、駐在所員等の方々と当該施設について話す機会を得ている。これからの地域社会への活動、取り組みに期待したい。</p>		
24	<p>Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	<p>a・b・㉔</p>
<p><コメント></p> <p>実習生の受け入れ同様に、ボランティア等の受け入れについても入所者への配慮を鑑みながら体制を整える方針で、登録・申し込み手続き・配置・個人情報保護への対応、母子への配慮をとまなう事前説明、実習プログラム等の整備を今後の課題としている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>		
25	<p>Ⅱ-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	<p>a・㉕・c</p>
<p><コメント></p> <p>入所者不在のためすべての関係機関と具体的な連携はできていないが、次の入所者にいつでもエコマップを提示できるよう、自分達が支援する立場で過去の支援事例の経過を調査しながら、福祉事務所や児童相談所、公共職業安定所等の福祉関係機関のみならず、実際に連携が想定される生活・就労・子育て・債務・健康・安全・心の相談などの連携機関を洗い出し、様々な入所者の状況に個別対応ができるよう必要な社会資源を明確化させている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>		
26	<p>Ⅱ-4-(3)-① 施設が有する機能を地域に還元している。</p>	<p>a・b・㉔</p>
<p><コメント></p> <p>施設が有する機能を地域に還元する取り組みは着手できていないが、地域の福祉向上への貢献は理念・基本方針（地域の福祉ニーズを把握し地域の子育てを支援する活動）でもあり、今後の課題となっている。</p>		
27	<p>Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p>	<p>a・b・㉔</p>
<p><コメント></p> <p>地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動についても着手できていないが、地域の福祉向上への貢献は理念・基本方針（地域の福祉ニーズを把握し地域の子育てを支援する活動）でもあり、今後の課題となっている。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な支援の実施

Ⅲ-1 母親と子ども本位の支援

	<p>第三者評価結果</p>
<p>Ⅲ-1-(1) 母親と子どもを尊重する姿勢が明示されている。</p>	

28	Ⅲ-1-(1)-① 母親と子どもを尊重した支援提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>母親向け・子ども向け・ローマ字表記のパンフレットに、理念・基本方針として母親と子どもを尊重した支援の実施について明示されているが、子どもの年齢に応じた内容の検討も期待したい。また、基本的人権を尊重することを支援に踏まえ、支援の標準的な実施方法へも反映されているが、入所者がいない現在、職員は過去の事例を分析して課題検討を行っている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 母親と子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した支援提供が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>設備の構造上、プライバシー保護は保たれているとはいえないが、権利擁護の重要性を認識した上で、規程やマニュアルは整備され、解かりやすく、また早期発見シート(母親用と子ども用)も作成されている。施設として母親と子どもの支援の特性を勘案した内容がマニュアルに取り込まれることが望まれる。</p>		
Ⅲ-1-(2) 支援の提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 母親と子どもに対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>入所者はいないため、エコマップ、それぞれの項目が詳しく記入される資料は準備されている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 支援の開始・過程において母親と子どもにわかりやすく説明している。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>女性相談センターで相談を受ける時は、自己決定を尊重している。上記のエコマップを用い説明する仕組みとなっている。また、契約書には母親のサインはあるが、子どものサインの場所がないので書面に記入欄を作るなどの確認が求められる。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>施設の移転で住所の変更もあり、早期に相談窓口や関係機関のネットワーク体制などについて検討をされることが望ましい。</p>		
Ⅲ-1-(3) 母親と子どもの満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 母親と子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>施設環境上、母親と子どもが満足して生活できるような環境ではなく(隣接の建物の一部に属している)、自立支援は期待できないと職員は感じているが、施設の特性を踏まえながら可</p>		

能な範囲で改善課題に取り組まれない。		
Ⅲ-1-(4) 母親と子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>苦情解決の仕組みについて、意見箱や第三者委員の設置、連絡方法、話し合いの手順、公表について書類上は明記されているが、入所者がおらず、取り組みが行われていないため、実際に機能しているかは確認できない。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 母親と子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、母親と子どもに周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>相談対応マニュアルを現職員で作成しており、内容は母子ともわかりやすくなっている。入所者がいないため実践が伴っていないが、表情や態度からも気持ちや意見を読み取るような取り組みについても検討されたい。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 母親と子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>相談対応マニュアルがあり、記録の方法や報告の手順、対応策の体制などが整っている。意見を聞くためのアンケート用紙は母親用と子ども用を作成している。実施にはいたっていない。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な支援の提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な支援の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>リスクマネジメント体制は、緊急時発生フローチャート、事故発生対応マニュアル、不審者侵入対応マニュアル、熊出没時対応マニュアルを作成して職員間で共有している。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における母親と子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症対応マニュアル(インフルエンザ・ノロウイルス)が整備され、隔離部屋の対策も講じている。職員は必要に応じて勉強会で意識啓発している。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における母親と子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>併設3施設合同の防災避難訓練を年2回実施し、消火器の使い方や心肺蘇生の方法などの実践訓練が行われている。施設独自の緊急時行動対応マニュアルも作成されている。</p>		

Ⅲ-2 支援の質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する支援の標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する支援について標準的な実施方法が文書化され支援が提供されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>支援の標準的な実施方法を作成し、職員間で共有して理解している。入所者がいないため、それにもとづいて支援が実施されているかは確認できない。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>入所者がいないため実施できず、これでよいのか不安に感じている。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより支援実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な支援実施計画を適切に策定している。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>アセスメント表に母親と子どもの個々の身体状況や生活状況等把握した内容を記載し、そこから見えてくるニーズが具体的に明示された記録になっているとはいいがたい。自立支援計画も策定されていない。専門性の技術の向上に努め、支援に反映できる仕組みの構築が望まれる。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に支援実施計画の評価・見直しを行っている。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>実地されていない。仮想の自立支援計画を作成し、職員間で研修をしている。</p>		
Ⅲ-2-(3) 支援実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 母親と子どもに関する支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a・b・ c
<p><コメント></p> <p>一時保護入所時の記録はあり、母子支援日誌や少年指導員日誌などの記録は共有化している。施設のルールを決め、すべての情報の伝達が望まれる。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 母親と子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>個人情報保護の取り扱い、記録管理の規定は文書化されている。保管状況や管理システムなどは確立している。今後は、情報開示の基本姿勢や開示の範囲、母親と子どもに配慮した内容の充実が望まれる。</p>		

内容評価基準（28項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な支援の実施」の付加項目

A-1 母親と子ども本位の支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 母親と子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が、母親と子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の支援を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>母親と子どもの状況に応じて、個性を受容し権利を尊重する支援について、職員には理解されているが、かかわる入所者がいないため実践につながっていない。</p>		
A-1-(2) 権利侵害への対応		
A②	A-1-(2)-① いかなる場合においても、職員等による暴力や脅かし、人格的辱め、心理的虐待、セクシャルハラスメントなどの不適切なかかわりが起こらないよう権利侵害を防止している。	a・㉔
<p><コメント></p> <p>職員の「就業規則」の規定の中に処分の仕組みが明記され、内容については共通認識を持っているが、かかわる入所者がいないため、取組みについては確認できない。</p>		
A③	A-1-(2)-② いかなる場合においても、母親や子どもが、暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切な行為を行わないよう徹底している。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>職員は研修を通して理解を図っているが、かかわる入所者がいないため、取組みについては確認できない。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 母親と子どもに対する暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>具体的な体制を整え、研修にも取り入れているが、かかわる入所者がいないため、取組みについては確認できない。</p>		
A-1-(3) 思想や信教の自由の保障		
A⑤	A-1-(3)-① 母親と子どもの思想や信教の自由を保障している。	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>書面には思想や信教については最大限配慮する内容が記載されており、職員は入所者の信教の自由について尊重する姿勢を示している。</p>		
A-1-(4) 母親と子どもの意向や主体性の配慮		
A⑥	A-1-(4)-① 母親や子どもが、自分たちの生活全般について自主的に考える活動（施設内の自治活動等）を推進し、施設における生活改	a・b・㉔

	善に向けて積極的に取り組んでいる。	
<p><コメント></p> <p>施設内の母子自治会活動である「若草会」があるが、入所者がいないため、活動停止状態である。</p>		
A-1-(5) 主体性を尊重した日常生活		
A⑦	A-1-(5)-① 日常生活への支援は、母親や子どもの主体性を尊重して行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>標準的支援の中には、主体的に生活する能力を引き出すことについて掲げているが、入所者がいないので、支援の実践にはつながっていない。</p>		
A⑧	A-1-(5)-② 行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすいように工夫し、計画・実施している。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>行事プログラムは毎年立案されているが、母親や子どもの意向を尊重するには施設の構造上の課題がある。</p>		
A-1-(6) 支援の継続性とアフターケア		
A⑨	A-1-(6)-① 母親と子どもが安定した生活を送ることができるよう、退所後の支援を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>今後の支援の方向性を検討している。</p>		

A-2 支援の質の確保

A-2-(1) 支援の基本		
A⑩	A-2-(1)-① 母親と子どもそれぞれの個別の課題に対応して、専門的支援を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>母親と子どものニーズに応じた専門的支援について、過去の事例を参考に、職員間で個別の支援方法を話し合われている。</p>		
A-2-(2) 入所初期の支援		
A⑪	A-2-(2)-① 入所に当たり、母親と子どもそれぞれのアセスメントに基づき、生活課題・ニーズを把握し、生活や精神的な安定に向けた支援を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>エコマップに、生活課題やニーズを落とし込むことができるように様式を作成している。居室は生活用品・家財道具などが貸し出しできるよう整っていて、いつでも使用できるようになっているが、居室の広さは十分ではなく、母親と男女児が入所した場合、プライバシーに配慮した広さとは言い難い状況である。</p>		

A-2-(3) 母親への日常生活支援		
A⑫	A-2-(3)-① 母親が、安定した家庭生活を営むために必要な支援を行っている。	a・b・㉔
<コメント> 職員間では養育や家事への支援について話し合われているが、実践が伴っていない。		
A⑬	A-2-(3)-② 母親の子育てのニーズに対応するとともに、母親と子どもとの適切なかかわりができるよう支援している。	a・b・㉔
<コメント> 養育に適切な環境として、保育所や学校などの資料を取り寄せたり、また虐待や不適切なかかわりに対する支援方法についても職員間で勉強会をしている。		
A⑭	A-2-(3)-③ 母親が安定した対人関係を築くための支援を行っている。	a・b・㉔
<コメント> 入所者がいないため、確認できない。		
A-2-(4) 母親と子どもへの支援		
A⑮	A-2-(4)-① 健やかな母親と子どもの育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行っている。	a・b・㉔
<コメント> 母子支援生活日誌や少年指導員日誌に支援内容が記入され、母親と子どもの個別のアセスメントまでは行っているが、自立支援計画作成までにはいたっていない。		
A⑯	A-2-(4)-② 母親と子どもが自立に必要な力を身につけるために、学習や進路、悩み等への相談支援を行っている。	a・b・㉔
<コメント> 一人親家庭学習支援事業の活用の資料作成にとどまっている。		
A⑰	A-2-(4)-③ 母親と子どもに安らぎと心地よさを与えられるおとなのかかわりや、母親と子どもどうしのつきあいに配慮して、人との関係づくりについて支援している。	a・b・㉔
<コメント> 実施されておらず、今後の課題と捉えている。		
A⑱	A-2-(4)-④ 母親と子どもの年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設け、思いやりの心を育む支援を行っている。	a・b・㉔
<コメント> 併設の児童養護施設の「ハッピーウーマンプロジェクト」が性教育事業に取り組んでいる実状があり、必要があれば、その支援を受けられるように検討されている。		
A-2-(5) DV被害からの回避・回復		
A⑲	A-2-(5)-① 母親と子どもの緊急利用に適切に対応する体制を整備している。	a・b・㉔

<p><コメント></p> <p>緊急時対応マニュアルが策定され、役割分担や責任の所在が明確にされ、連絡調整の体制も整備されている。一時保護業務を委託しているが、職員数が少なく、夜間や休日の受け入れができない状況である。</p>		
A⑳	A-2-(5)-② 母親と子どもの安全確保のために、DV防止法に基づく保護命令や支援措置が必要な場合は、適切な情報提供と支援を行っている。	a・b・㉓
<p><コメント></p> <p>一時保護業務の中で、関係機関と連絡調整をして、市役所やアパートの手続き、子どもの学校関係の手続きなど、弁護士と共に支援を行った。</p>		
A㉑	A-2-(5)-③ 心理的ケア等を実施し、DVの影響からの回復を支援している。	a・b・㉓
<p><コメント></p> <p>心理療法担当職員の配置がないので、併設の児童養護施設の心理士に心理的なケアを依頼するなど、関係機関との連携や支援団体の紹介資料などを活用できるように取り組まれない。</p>		
<p>A-2-(6) 母親と子どもの虐待状況への対応</p>		
A㉒	A-2-(6)-① 被虐待児に対しては虐待に関する専門性を持ってかわり、虐待体験からの回復を支援している。	a・b・㉓
<p><コメント></p> <p>実践はなく、今後は心理療法等の専門的ケアを高める取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(7) 家族関係への支援</p>		
A㉓	A-2-(6)-② 母親と子どもの権利擁護を図るために、関係機関との連携を行っている。	a・b・㉓
<p><コメント></p> <p>子どもの利益を最優先することを職員は理解して、関係機関との連携につなげてほしい。</p>		
A㉔	A-2-(7)-① 母親や子どもの家族関係の悩みや不安に対する相談・支援を行っている。	a・b・㉓
<p><コメント></p> <p>母親や子どもの不安や悩みを受け止める相談・支援について、職員間で話し合っている。</p>		
<p>A-2-(8) 特別な配慮が必要な母親、母親と子どもへの支援</p>		
A㉕	A-2-(8)-① 障害や精神疾患、その他の配慮が必要な母親と子どもに対する支援を適切に行い、必要に応じて関係機関と連携している。	a・b・㉓
<p><コメント></p> <p>状況に応じた必要な支援ができるよう、社会資源を積極的に活用し、関係機関と連携していくことを期待する。</p>		
<p>A-2-(9) 就労支援</p>		
A㉖	A-2-(9)-① 母親の職業能力開発や就労支援を適切に行っている。	a・b・㉓

<p><コメント></p> <p>母親の就労支援に対し、職員の人員や勤務体制が整っておらず、支援は困難と想定される。</p>		
A⑳	A-2-(9)-② 就労継続が困難な母親への支援を行い、必要に応じて職場等との関係調整を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>入所者がいないので実施できていないが、社会資源の活用や関係機関との連携に関する資料を作成している。</p>		
<p>A-2-(10) スーパービジョン体制</p>		
A㉑	A-2-(10)-① スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性の向上や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a・b・㉔
<p><コメント></p> <p>入所者がいない状況に、長期就業の職員の配置がなく、スーパーバイザーの配置も望めない。今後に向けた話し合いが望まれる。</p>		